# 支店長の曲り角

城山三郎

# 支店長の曲り角

城山三郎

講談社

**城山三郎**（しろやま　さぶろう）
1927年愛知県名古屋市生まれ。作家。
東京商大に学ぶ。『総会屋錦城』で第40回直木賞受賞。
著書に『雄気堂々』『落日燃ゆ』『本田宗一郎との100時間』『粗にして野だが卑ではない』、訳書に『ビジネスマンの父より息子への30通の手紙』『ビジネスマン、生涯の過ごし方』など多数がある。

**支店長の曲り角**
1992年10月9日　第1刷発行

**著者**——城山三郎

©Saburō Shiroyama 1992 Printed in Japan

**発行者**——野間佐和子
**発行所**——株式会社講談社
東京都文京区音羽2-12-21 郵便番号112-01
☎ 東京 03-5395-3522（出版部）
03-5395-3622（販売部）
03-5395-3615（製作部）
**装幀**——山岸義明
**印刷所**——慶昌堂印刷株式会社
**製本所**——株式会社黒岩大光堂

●落丁本・乱丁本は，小社書籍製作部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。なお，この本についてのお問い合わせは学芸第二出版部あてにお願いいたします。
定価はカバーに表示してあります。
**ISBN4-06-206136-8**　（学2）

# 支店長の曲り角◉目次

# 人生点描

元社長　8
化学会社経理部員　11
支店長の曲り角　14
古家の主、または財界総理　18
商社部長　21
宰相　24
女性課長　27
運送店主　30
火葬場職員　33
若手官僚　36
ホンコン総支配人　39

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

妻 42
紐のつながり 44

## 若年詩篇

重患 48
再来 49
生 51
伝説以後 52
スパイク拒否 55
蛸ノ泡 57
ナショナル アピール 60
アンデレの島 62
ほろび またはセンチメンタル・ジャーニイ 65

旗 67

## 中年詩篇

男児五十三歳 72
愛 74
雨上り 76
小田急江ノ島線 78
友失いて 80
ベッドタウン 82
人生 84
心のやつ 87
便り 90
ネパール紀行 92

ハイリゲン・ブルートにて 95
コタバル紀行 98
ふつうの日 100
春、茅ケ崎 102

## 勲章について

勲章について 106
初出一覧 115
あとがき 117

# 人生点描

## 元社長

あなたの家の庭での恒例のパーティ

「このごろ　どうされてますか」

わたしの問いに　あなたは叱られた子のように頭を掻き

「毎日家に居て　やることがなくって困ってますよ」

「絵はいかがです」

「前ほどおもしろくなくなっちゃった」

「ゴルフは」

「これも　おもしろくない」

「じゃ　何がおもしろいんですか」



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

一瞬の間を置き　あなたはわたしの耳に口を寄せ　ささやいた
「仕事　本当におもしろいのは　仕事だけ」
稲妻となって　わたしを打つ言葉であった
あなたは黙り　あなたの悪戯っぽい瞳にも　きらりと稲妻は光った

仕事――
あなたが一代でつくった会社の名は　いま地球を蔽っている
ニッポンを知らぬ人も　あなたの会社を知っている
それほどの会社を　あなたは二十年も前に若い後輩たちに託し
一気に身を退(ひ)いた
まるで　急に仕事に飽きたかのように

そのあなたの中で　いまも仕事がそれほど好きであったとは

緑濃い芝生
あなたと同じテーブルには　あなたを見習い　その後　一気に会
社を退いた社長　会長　副社長たち
まだ若いのに　みんな仏さまのようにいい顔をし
会社についての話はしない

東京の真中のあなたの庭で　その一卓が弥陀の浄土になった
光の輪の中のあなたの名は——本田宗一郎

# 化学会社経理部員

東京生まれの鎌倉育ち
歯切れがよく　曲ったことが嫌い
専攻は会計学だが　文学好き　アメリカのペイパーバックスを軽やかに読んでいた
わたしとは気が合ったが　友達の輪には加わらない

財閥系の化学会社
東大出だけが出世コース　とわかる
第二組合がつくられ　労組つぶし

「おれ一人になっても　組合に残るよ」
身を捨てるか　意地を棄てるか
会う度に笑顔が小さくなる

監査基準について役員とやり合った
「上はわかっちゃいないし　わかろうとしない」
啖呵は切るが　愚痴に流れない

晩婚　相手は同じ会社の女性
だが　相変らずペイパーバックスを読み　休日には一人で遠出し
京の寺を訪ねたりしている　と
そして　いつとはなしに姿を見せなくなった

やがて「消息不明」
同窓会名簿から　ことりと外れる
自殺だった　という

なぜ死んだか
どんな死であったか
数多い同窓のだれひとり知らない

伸びてこそいないが
いまもその会社は在る
株式欄（ボード）の社名も陰気である

## 支店長の曲り角

「ここで待ち伏せされて　あの支店長は殺られたんです　マシンガンだから　避けようもありませんや　以来　われわれはここをなるべく通らぬようにしてるんです」
　車の中から　別の商社の支店長が掃射の身振りをまじえ　教えてくれた

　大通りがゆるやかなカーブを描き
　狙撃目標は誘いこまれて大きくなる
　運命の別れ　命との別れとなった曲り角



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong